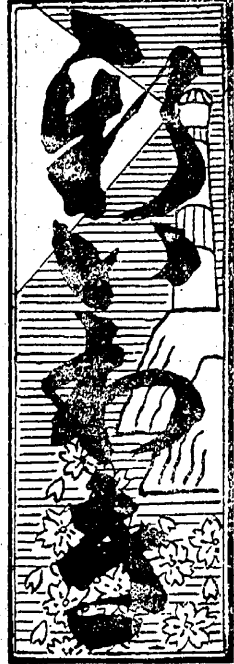


刊夕 日三十月八



休日 日曜 祭日  
一月廿九日 廿九日  
二月一日 二日  
三月三日 四日  
四月五日 六日  
五月七日 八日  
六月九日 十日  
七月十一日 十二日  
八月十三日 十四日  
九月十五日 十六日  
十月十七日 十八日  
十一月十九日 二十日  
十二月廿一日 廿二日  
一月廿三日 廿四日  
二月廿五日 廿六日  
三月廿七日 廿八日  
四月廿九日 三十日  
五月三十一日  
六月一日 二日  
七月三日 四日  
八月五日 六日  
九月七日 八日  
十月九日 十日  
十一月十一日 十二日  
十二月十三日 十四日  
一月十五日 十六日  
二月十七日 十八日  
三月十九日 二十日  
四月廿一日 廿二日  
五月廿三日 廿四日  
六月廿五日 廿六日  
七月廿七日 廿八日  
八月廿九日 三十日  
九月一日 二日  
十月三日 四日  
十一月五日 六日  
十二月七日 八日  
一月九日 十日  
二月十一日 十二日  
三月十三日 十四日  
四月十五日 十六日  
五月十七日 十八日  
六月十九日 二十日  
七月廿一日 廿二日  
八月廿三日 廿四日  
九月廿五日 廿六日  
十月廿七日 廿八日  
十一月廿九日 三十日  
十二月一日 二日  
一月三日 四日  
二月五日 六日  
三月七日 八日  
四月九日 十日  
五月十一日 十二日  
六月十三日 十四日  
七月十五日 十六日  
八月十七日 十八日  
九月十九日 二十日  
十月廿一日 廿二日  
十一月廿三日 廿四日  
十二月廿五日 廿六日  
一月廿七日 廿八日  
二月廿九日 三十日  
三月一日 二日  
三月三日 四日  
三月五日 六日  
三月七日 八日  
三月九日 十日  
三月十一日 十二日  
三月十三日 十四日  
三月十五日 十六日  
三月十七日 十八日  
三月十九日 二十日  
三月廿一日 廿二日  
三月廿三日 廿四日  
三月廿五日 廿六日  
三月廿七日 廿八日  
三月廿九日 三十日  
三月三十一日  
四月一日 二日  
四月三日 四日  
四月五日 六日  
四月七日 八日  
四月九日 十日  
四月十一日 十二日  
四月十三日 十四日  
四月十五日 十六日  
四月十七日 十八日  
四月十九日 二十日  
四月廿一日 廿二日  
四月廿三日 廿四日  
四月廿五日 廿六日  
四月廿七日 廿八日  
四月廿九日 三十日  
五月一日 二日  
五月三日 四日  
五月五日 六日  
五月七日 八日  
五月九日 十日  
五月十一日 十二日  
五月十三日 十四日  
五月十五日 十六日  
五月十七日 十八日  
五月十九日 二十日  
五月廿一日 廿二日  
五月廿三日 廿四日  
五月廿五日 廿六日  
五月廿七日 廿八日  
五月廿九日 三十日  
六月一日 二日  
六月三日 四日  
六月五日 六日  
六月七日 八日  
六月九日 十日  
六月十一日 十二日  
六月十三日 十四日  
六月十五日 十六日  
六月十七日 十八日  
六月十九日 二十日  
六月廿一日 廿二日  
六月廿三日 廿四日  
六月廿五日 廿六日  
六月廿七日 廿八日  
六月廿九日 三十日  
七月一日 二日  
七月三日 四日  
七月五日 六日  
七月七日 八日  
七月九日 十日  
七月十一日 十二日  
七月十三日 十四日  
七月十五日 十六日  
七月十七日 十八日  
七月十九日 二十日  
七月廿一日 廿二日  
七月廿三日 廿四日  
七月廿五日 廿六日  
七月廿七日 廿八日  
七月廿九日 三十日  
八月一日 二日  
八月三日 四日  
八月五日 六日  
八月七日 八日  
八月九日 十日  
八月十一日 十二日  
八月十三日 十四日  
八月十五日 十六日  
八月十七日 十八日  
八月十九日 二十日  
八月廿一日 廿二日  
八月廿三日 廿四日  
八月廿五日 廿六日  
八月廿七日 廿八日  
八月廿九日 三十日  
九月一日 二日  
九月三日 四日  
九月五日 六日  
九月七日 八日  
九月九日 十日  
九月十一日 十二日  
九月十三日 十四日  
九月十五日 十六日  
九月十七日 十八日  
九月十九日 二十日  
九月廿一日 廿二日  
九月廿三日 廿四日  
九月廿五日 廿六日  
九月廿七日 廿八日  
九月廿九日 三十日  
十月一日 二日  
十月三日 四日  
十月五日 六日  
十月七日 八日  
十月九日 十日  
十月十一日 十二日  
十月十三日 十四日  
十月十五日 十六日  
十月十七日 十八日  
十月十九日 二十日  
十月廿一日 廿二日  
十月廿三日 廿四日  
十月廿五日 廿六日  
十月廿七日 廿八日  
十月廿九日 三十日  
十一月一日 二日  
十一月三日 四日  
十一月五日 六日  
十一月七日 八日  
十一月九日 十日  
十一月十一日 十二日  
十一月十三日 十四日  
十一月十五日 十六日  
十一月十七日 十八日  
十一月十九日 二十日  
十一月廿一日 廿二日  
十一月廿三日 廿四日  
十一月廿五日 廿六日  
十一月廿七日 廿八日  
十一月廿九日 三十日  
十二月一日 二日  
十二月三日 四日  
十二月五日 六日  
十二月七日 八日  
十二月九日 十日  
十二月十一日 十二日  
十二月十三日 十四日  
十二月十五日 十六日  
十二月十七日 十八日  
十二月十九日 二十日  
十二月廿一日 廿二日  
十二月廿三日 廿四日  
十二月廿五日 廿六日  
十二月廿七日 廿八日  
十二月廿九日 三十日

### 共済病院のごたく 一院二長圓滿解決

#### 近日開催の専任理事會

中町の磐城共済病院が現院長石山博士が家事都合による退職を決めるや、その後任に東都から片野博士を招聘した一院二長の紛争は、世に種々なる事情を傳へられたが、同問題は漸く無事解決を告げて従前の通り石山博士の院長によつて診療を執ることになつた事、茲に至るまでの實状は約六萬圓の負債及び其の他當然支拂はねばならぬ三萬餘圓の取引關係を有する窮状を共済會長賀澤忠治氏の經營責任にありたるものを數ヶ月前から兩氏の懇談を整へて石山博士に經營を任した其の收支關係に對する誤解と感情あつたが、愈々福島市油井徳が交錯して遂に此の内訌を賀澤氏が片野博士を招ぶことになつたもので、紛争解決に去る九日夜深更に及ぶ専任理事會は當の賀澤氏外副會長木村清治、井上茂作、野崎滿藏、萩原義雄、岡田千藏、端山正男氏の出席で賀澤氏が前例による石山

### 二百の投票を争ふ 長者選挙戦愈々猛

#### 濱通から出た金成氏の経歴

多額議員の選挙に濱通りから出馬せる金成氏は早くも實戦に入り郡山の根本祐太郎氏また地方の結束に推された政友派二名の立候補ありたるものを數ヶ月前から兩氏の懇談を整へて石山博士に經營を任した其の收支關係に對する誤解と感情あつたが、愈々福島市油井徳が交錯して遂に此の内訌を賀澤氏が片野博士を招ぶことになつたもので、紛争解決に去る九日夜深更に及ぶ専任理事會は當の賀澤氏外副會長木村清治、井上茂作、野崎滿藏、萩原義雄、岡田千藏、端山正男氏の出席で賀澤氏が前例による石山

### 磐越の配當 一千三百圓

金成氏は明治十二年六月生れ當年五十四才茨城県から石城郡錦村金成家に養嗣子となつて四十年十磐越銀行の破産整理第一回配當は昨報の如く去る十一

### 救済事業に繰入れて 四百間を一機に完成

#### 來る臨時縣會に實現の運動

平町外内郷、飯野一町三ヶ中村署次席に榮轉の下重警村の水害豫防組合に於ける部補と當日午後一時五十八分同町南裏なる新川改修工事分を赴任し小田部新平警長は大正六年以來の繼續工事は十七日中に着任するとで、残るところ四百間となり本年度計畫として二百間の改修を縣に向つて既に申請中なるも來る臨時縣會に於て窮民救済の土木事業を附議するに當り前記四百間を變同工事の如きも一機に施行されたい希望を以て右關係地から重ねて請願を行ひ更に最近電報を以て同陳情を發してゐるが酒井平町助役は該工事繰入運動の爲め縣廳に出願し極力この實現に努むる等、今十三日出

### 逃走したか 情夫を携へて

#### 江名町生れ 三十四の女

石城郡江名町の江名字北町四六居住雨澤幸松妻ちよ（二四）は同町の四家伊太郎方に宿泊してゐた去る八日夜半頃無断で同家を去り行方不明となつた爲め隣家の人々と共に心當りを問合せ、江名町に於て同女を捜索するに當り前記四百間を變同工事の如きも一機に施行されたい希望を以て右關係地から重ねて請願を行ひ更に最近電報を以て同陳情を發してゐるが酒井平町助役は該工事繰入運動の爲め縣廳に出願し極力この實現に努むる等、今十三日出

### 平署員の 着赴任

中署から肩を揃へて福島に榮轉する佐久間、長澤兩警部發に橋本警部補は目下町内の挨拶中であるが三氏は何れも十五日午前八時半磐越越本線で任地に向ふ筈であるが小名濱派出所から

### 妻から 夫の行方を 索願

#### 郡山市の細沼町三五北村留

郡山市の細沼町三五北村留（三六）は去る六日午後十時頃無断家出のまゝ行方不明となつたので心當を探して見たが所在が判らず平町方面に潜伏の模様を傳へられてゐると云ふので今十三日妻きた（三四）から平署に搜索方願出たが同人は五尺一寸、色黒で面長の男である。

### 旅順から 江尻 進

#### 歩兵第三十聯隊本部

同隊は前に本部を吉林に置いたが吉會鐵道未成線工事の進捗に伴ひ工事保護の爲河に移り附近に散在する敗殘兵、匪賊の討伐で鐵道他に大小無数の木橋を敷設してゐる機敏な兵隊等は給以外は總て吉林から仰へて來た兵士が何等の通信も得ない、兵士の誰一の樂しきは熱睡と書信で殊に郵便物は兵士の最も期待するものでイナゴの如く飛び出し

### 一通信 （九）

朝五時に起きてすぐにはラデオ體操の用意をした、僕ものすごく大ぐわいストライムるものがある、松花江の堂々たる建物だが一歩驟巻、地下足袋の兵が集い争つて家郷からの通信を受取る時は、顔を引上げ行くを

### 社告

#### 來十五日から三日間

來十五日から三日間、四、五、六の舊盆中従業員を慰安させたく思ひますから休刊させていただきます。

### 愛讀者各位

#### が二、四倉が一、四回

が二、四倉が一、四回には平が二、四回、向ふは〇、五回、五回にどちらも〇、四回、試合は七、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、百。

